

【福島イノベーション・コースト構想とは】

- 東日本大震災及び原発事故によって失われた浜通り地域等の産業基盤の再構築を目指すための構想。
- 2020年を当面の目標として、ロボット、エネルギー、農林水産、廃炉研究、スマート・エコパーク、国際産学連携・人材育成などの、拠点や各プロジェクトの具体化を進めることにより、浜通りが新たな産業革命の地となり、福島県全体の復興、ひいては日本の地域再生のモデルとなることを目指す。
- 浜通り地域等を、人を惹きつける魅力ある地域とし、地域全体を再生していくために拠点の周辺環境の整備、交流人口の増加、拠点を核にした産業集積の実現を目指す。

〈拠点の動き〉

〈主な取組事例〉

1 **ロボットテストフィールド**



災害対応ロボット等の実証試験や性能評価を行う。
H28.9～：設計等
H30年度：順次開所予定

2 **国際産学官共同利用施設 (ロボット)**



国内外の研究者等が集い、ロボットの基礎的・基盤的な研究等を行う。
H28.10～：設計等

3 **情報発信(アーカイブ) 拠点施設**



東日本大震災及び原子力災害の実態と復興への取組を正しく伝え、教訓として、国を越え、世代を超えて継承・共有していく。
H28.4～：構想等
H32年度：開所予定

4 **大熊分析・研究センター (放射性物質分析・研究施設)**



燃料デブリ等の性状把握、処理技術開発を行う。
H28.9～：建設工事等
H29年度：一部運用開始予定

5 **廃炉国際共同研究センター 国際共同研究棟**



国内外の大学、研究機関、企業等が集結し、廃炉研究と人材育成を行う。
H28.4～：建設工事等
H29.4：開所予定

6 **楢葉遠隔技術開発センター (モックアップセンター)**



原子炉格納容器の調査・補修用ロボット等の開発・実証実験を行う。また、計測機器、工作機械等の設備は、中小企業等など一般による利用が可能。
H28.4：全面運用開始



- 周辺環境の整備
- 交流人口の増加
- 産業集積

1 **無人飛行体をプラットフォームとする放射線分布の3D可視化技術の開発**



迅速かつ簡便に放射線をイメージングする技術が求められている現状を踏まえ、無人飛行体による放射線分布の3D可視化技術の開発を目指す。

2 **高度化する在宅医療を支える在宅メディケアシステム開発**



モバイル端末やクラウドを介して在宅高齢者の診断画像情報、バイタル情報、その他の健康情報を共有化することで、訪問介護者・かかりつけ医が高度なコミュニケーションをはかる在宅メディケアシステムの開発。

3 **法面用除草ロボットの実証**



開発した除草ロボットを用い、形状や草種の異なる法面での現地実証を実施。

4 **中型ロボットトラクタの実証**



開発したロボットトラクタを用い、代かき、施肥、は種等の作業の現地実証を実施。

5 **再生可能エネルギー活用による水素製造システム実用化開発**



相馬市における先進水素研究促進、水素社会への対応、地域の系統連携制約への配慮等への貢献を目指した再生可能エネルギー活用による効率的な水素製造システムの実証。

6 **災害救援物資輸送ダクトドローン・ファンAVの開発**



航続距離・対空時間が長く、ペイロード重量が大きく、狭隘・障害物のある場所での飛行・着陸時の安全性等が確保されたエンジン駆動のダクトドローン・ファン自律飛行・垂直離着陸機を開発。

7 **浜通り発 海洋のドローン開発プロジェクト**



福島浜通り地域において水産業等の再開のため、基礎データを集集し、海洋調査のため無人観測船の開発を目指す。

政府閣議決定等での位置付け		検討の経緯等(国及び県の動き)	
平成25年度		1月	福島・国際研究産業都市構想研究会 設置 (赤羽原子力災害現地対策本部長の私的研究会、副知事や有識者が参加) ⇒H26.6.23 報告書とりまとめ → <u>廃炉研究開発拠点、ロボット研究・実証拠点、国際産学連携拠点、スマート・エコパークの整備のほか、エネルギー関連産業の集積、農林水産分野における新産業創出など構想の主要プロジェクトをとりまとめ。</u>
平成26年度	6月	11月	個別検討会の設置・検討 ・ロボット研究・実証拠点 ⇒H27.3中間整理とりまとめ → <u>県内ロボット事業者支援とテストフィールド提供を行う拠点整備の必要性を明記。</u> ・国際産学連携拠点 ⇒H27.3中間整理とりまとめ → <u>産学官共同研究施設、大学教育拠点、技術者研修拠点、情報発信拠点の整備の必要性を明記。</u> ・スマート・エコパーク ⇒H27.3中間整理とりまとめ → <u>新たな環境・リサイクル事業の提示と新たなプラットフォーム設置の方向性を明記。</u>
	1月	11月	県・市町村検討会議 設置 ((座長)企画調整部長、15市町村担当課長、有識者等で構成)
平成27年度	6月	12月	イノベーション・コースト構想推進会議 設置 (座長)高木原子力災害現地対策本部長、知事、地元市町村長、有識者等で構成 ⇒H27.6.7 イノベーション・コースト構想推進会議におけるこれまでの議論の整理 → <u>各プロジェクトの概要及び2020年に向けた目標スケジュールなどを整理。</u>
	1月	12月	検討分科会 設置 ・エネルギー関連産業分野 ⇒H27.4第1次とりまとめ → <u>避難地域・再生可能エネルギー復興支援プロジェクトなど10のプロジェクトをとりまとめ。</u> ・農林水産分野 ⇒H27.4第1次とりまとめ → <u>水稲超省力・大規模生産プロジェクトなど8つのプロジェクトをとりまとめ。</u>
平成28年度	6月	8月	ふくしま環境・リサイクル関連産業研究会 設置 ⇒H28.4.4 4つのワーキンググループ 設置①石炭灰リサイクル事業化、②小型家電リサイクル事業化、③太陽光パネルリサイクル事業化、④浜通りにおける廃棄物処理システム構築
	6月	8月	廃炉国際共同研究センター国際共同研究棟の立地場所を富岡町に決定
平成29年度	6月	12月	ロボットテストフィールド・国際産学官共同利用施設(ロボット)活用検討委員会 設置 ⇒H28.3.24 中間整理とりまとめ → <u>両拠点整備の考え方や整備内容等を取りまとめ。</u>
	5月	2月	拠点を核とした産業集積及び周辺環境整備の課題に係る検討会 設置 ⇒H28.5.27 拠点を核とした産業集積及び周辺環境施日の課題に係る検討会議論の整理 → <u>産業集積に向けた取組、周辺環境整備等に向けた課題と対応の方向性を整理。</u>
平成30年度	6月	3月	福島新エネ社会構想実現会議 設置 ⇒H28.9.7 福島新エネ社会構想決定 → <u>再生可能エネルギーの導入拡大、水素社会実現のモデル構築、スマートコミュニティ構築。</u>
	5月	4月	櫛葉遠隔技術開発センター(モックアップセンター)本格運用開始
平成31年度	6月	4月	ロボットテストフィールド・国際産学官共同利用施設(ロボット)の立地場所を南相馬市、浪江町に決定
	6月	6月	東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設基本構想策定に係る検討会議 設置 ⇒H29.3.27 基本構想策定
令和元年度	2月	8月	東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設の立地場所を双葉町に決定
	2月	2月	ふくしまみらいビジネス交流会(ロボット) 開催
令和2年度	3月	3月	ふくしまみらいビジネス交流会(再エネ、環境リサイクル)
	3月	3月	福島イノベーション・コースト構想シンポジウム開催
令和3年度		3月	福島・国際研究産業都市(イノベーション・コースト)構想推進事業関連調査とりまとめ